

評価実施年度	令和 7 年度	学校名	大分県立 別府翔青 高等学校	
学校教育目標	外国語、普通、商業の3つの学科を設置する高校であり、地域との連携のもと、国際社会における多様な課題の探究や地域社会の活性化に係る発展的な学びを通して、グローバルな視点と多様性を認め合う心の豊かさを持つリベラルアーツ教育の実践			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>校長のリーダーシップのもと、3学科の強みを活かした教育に教職員一丸で取り組む姿勢は評価できる。</li> <li>令和8年度の学科改編に向け、学びの方向性が明確かつ体系的に示されている点は評価できる。</li> <li>教育活動が実効性のある方向に展開されており、組織的な取組を高く評価する。</li> <li>「交差」「リベラルアーツ」「人間性」がスクールポリシーと統一的に扱われている点は評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の専門性を単に並列させるのではなく、それらが混ざり合うことで生まれる新しい価値を、生徒自身が体験できるような授業づくりに力を入れたい。探究学習では、学科の壁を低くし、『学びの交差』が発展するようさらなる工夫を施す。</li> <li>学科改編を単なる制度変更にと終わらせず、学校全体が生まれ変わるチャンスと捉えている。教職員全員が新しい学びの体現者として、組織一丸となって準備を加速させ、中学生だけでなく地域や社会からも選ばれ続ける学校づくりに挑戦したい。</li> </ul>
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い。</li> <li>行事後にアンケートを実施するなど、PDCAのサイクルが機能する体制づくりができていることは評価できる。</li> <li>学科再編に伴う目標達成に向け、PDCAの評価・改善段階における具体策の着実な実行が望まれる。</li> <li>主幹教諭や指導教諭が学校運営の中核として機能し、組織的な責任・運営体制が整っている点を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事取組の振り返りと検証を継続して行い、成果や課題を可視化して全体で情報共有を図り更なる改善を図る。</li> <li>学科再編に伴い、全学科のグラデュエーションポリシーを全教職員で共有し、教育活動に臨む態勢の一層の推進を図る。</li> <li>主幹教諭と指導教諭がそれぞれ分掌主任と教科主任と連携を取り、責任・運営体制を確立する。</li> </ul>
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い。</li> <li>生徒アンケート、保護者アンケートの結果を活用し、学校へのニーズの把握が出来ている。</li> <li>学校の諸活動については、HPを十分に活用して生徒・保護者にも発信できている。</li> <li>大学、金融機関、市役所等と連携し教育活動を展開している点は評価できる。</li> <li>探究活動等の学びの成果を、保護者や中学生、地域へ発信することを今後期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間(クロスオーバー探究)や次年度から始まるクロスアカデミア科におけるクロスラーニング探究を中心に、金融機関や市役所、別府市観光協会や商工会議所、大学との連携をさらに深める。</li> <li>別府八湯温泉祭りの運営ボランティア活動や子ども食堂運営補助、市内清掃など年間を通じて各種イベントへ参加し、地域活性化に貢献し地域との結びつきを深める。</li> <li>上記2つについて、ホームページやSNSを有効活用しながら発信し、翔青高校にしかできない独自の活動を確立する。</li> </ul>
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>良い。</li> <li>ICT活用や目標提示に改善が見られる一方、生徒が思考・表現・議論する時間のさらなる確保が期待される。</li> <li>学校全体で、「教科横断的な学び」の推進に向けて、授業づくりに取り組んでいることは評価できる。</li> <li>総合的な探究の時間や課題研究での学びと、他教科の学びとのつながりを意識した学習が強く求められる。</li> <li>さらに、生徒が各教科の関連性をより実感しながら学習に取り組めるよう、指導の工夫を大いに期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究会、互見授業を通して教科横断的な学びを見据えた授業改善に向けての取り組みを更に進める。</li> <li>授業改善推進委員会や教科会議を活用し、教科横断学習の方法や時期について具体的な協議を行う。</li> <li>生徒による授業アンケートを分析し、授業の振り返り等を通して思考が深まる授業が実践できるよう教科会議等を活用して授業改善を図る。</li> <li>他校の授業研究会への積極的な参加等を通し、先行事例や好事例を参考に探究的な学びの深化を目指した指導の工夫や他教科との横断授業の在り方の研究を進める。</li> </ul>
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。  ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>担任・副担任の複数体制で定期的な面談を行うなど、生徒への適切できめ細やかな取組が見られる。</li> <li>年5回のいじめアンケートや不登校の実態把握に努め、組織的な対応体制を整えている点は評価できる。</li> <li>SCやSSWと連携した組織的な対応がなされており、生徒の状況に応じた支援が図られている。</li> <li>生徒ヒアリングからも、学校全体の雰囲気の良いことや教員との良好な関係が築かれていることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期の始めに実施している「面接間」を引き続き行い、生徒がスムーズに学校生活を送れるよう配慮していく。</li> <li>不登校対策については、保健・教育相談部が定期的にミーティングを開催し、ケース会議を効果的に運用するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を強化することで、未然に防止する取組を進めていく。</li> </ul>
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。  ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>極めて良い。</li> <li>部活動時の雷による重大事故防止に向けて、検知器の購入をするなど指摘事項の改善が確実に実施されている。</li> <li>危機管理マニュアルの修正も確実に行われている。</li> <li>時代に応じたネットリテラシー教育の推進や、対策をマニュアルへ反映するなどの安全管理の強化を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動教室時のHRの施設等、学校の安全管理を徹底していく。</li> <li>情報モラルや安全教育に関する講演会を実施し、マナー教育にも力を注ぎたい。</li> <li>防災教育について、年度の最初から周知や徹底を行い、さらに体験型の訓練を実施することで、災害を身近に感じられるように意識を高めていく。</li> </ul>
信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の定時退庁は全体に定着しており、働き方改革における一定の改善が見られる点は評価できる。</li> <li>ノ一部活動日の設定については、引き続き実効性のある改善に向けた取組が期待される。</li> <li>生徒とのヒアリングから、先生と生徒の関係は良好であることが分かる。</li> <li>学校内、教室内の設備の整理がきちんと行われていることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員のワークライフバランスの実現が、これまで以上に質の高い教育活動の提供に資するよう、部活動の活動方針等に沿った適正な活動、教職員の意識改革などを引き続き推進していく。</li> <li>ICT活用はある程度進んでいるが、学習支援アプリなど外部組織のアプリ等を積極的に導入し、教員の業務効率化を進めていきたい。</li> </ul>
	学校課題の解決に向けた取組等	○学科改編へ向けて、スクール・ミッション、スクール・ポリシーをより高いレベルで実現することが求められており、的確な現状分析ができていくか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学科の強みを活かした連携や探究活動の進化とともに、教員との密な連携による指導の充実を期待する。</li> <li>探究の「テーマ設定」に悩む生徒に対し、コミュニケーションを重視したきめ細やかな支援が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールミッション、スクールポリシーを教職員へ周知・徹底するとともに、その実現に向けて組織的に教育活動に取り組んでいきたい。</li> <li>地域中学生の成績上位者からも選ばれる学校となるように、これからの予測不能な時代を生き抜ける生徒の育成を目指すことで学校の魅力を高めていく。</li> <li>生徒が、学校が推奨する「翔青クエスト」を実践できるように、教員一人ひとりが日常の教育活動(生徒会活動、部活動、授業など)を通じて積極的に声をかけ、支援していく。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科改編を契機として、学校経営を特徴づける「交差」「リベラルアーツ」「人間力」がより鮮明となり、授業の活性化や社会連携が好転しつつある現状を、次年度以降も組織的に具現化していくことを期待する。</li> <li>今後の重点課題としては「翔青クエスト」の骨太化である。そのためにも、地域、大学、行政、卒業生等と連携することにより、課題を理解しテーマを設定することの改善さらには、成果を発信・評価する体制づくりへと発展させることが求められる。</li> <li>教室に配備されているプロジェクターで投影された画面が暗いように思える。生徒ヒアリングでも後部座席や端の座席の生徒は見えにくいという意見があった。</li> </ul>			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科改編後の内容を反映したスクールポリシーを全職員に深く浸透させるとともに、それらを基盤とした教育活動を教職員一丸となって推進できるよう、管理職やミドルリーダーが具体的な方針を示していく。そして、PDCAサイクルを組織的に回しながら、継続的な改善を図っていく。</li> <li>豊かな人間力を育成するために、幅広い選択科目(教養科目)の履修や、教科・学科・分野をそれぞれ横断させる活動を授業に取り入れるなど、リベラルアーツ教育を推進していく。</li> <li>「翔青クエスト」を学校の根幹に位置付けることで、生徒一人ひとりが主体的に探究心を持ち、課題解決に向けて積極的に取り組む姿勢を育んでいく。</li> <li>HPやSNSを活用し、情報発信の充実を図るとともに、新聞などのメディアも積極的に活用して教育活動実績を広く伝えていきたい。特に、中学生や保護者だけでなく、地域の方々にも情報を届けることを重視しているが、探究学習の成果発表会「翔青クエストカップ」の情報発信も積極的に行うことで、本校の魅力をさらに高めていく。</li> <li>教職員のウェルビーイングを実現するために、部活動の時間や教科指導の時間を計画的に管理・調整し、ワークライフバランスの向上を推進していく。</li> </ul>			